

Product for clients

Career Power Life & Information Plaza

Powered By CareerPower

株式会社 キャリアパワー

Vol. 81
2018.12 Winter

「まずは自分がベストを尽くす。 そこで生まれた苦勞は必ず報われる。」



学校法人梅村学園
中京大学
人事部 副部長

加藤 豊様

Top Interview

巻頭インタビュー

今回は、中京大学人事部の副部長を務めます加藤豊様にインタビューをさせていただきました。2023年に創立100周年を迎える梅村学園の今後の取り組みなどについてお話を伺いました。

外部の人材サービスは無くしてはならない 中京大学の戦力である。今後もパートナーとして派遣会社との連携を図りたい。

現

在、キャリアパワー社からはたくさんの優秀な派遣スタッフの方に就業いただいております。中京大学としても派遣スタッフの皆さまのお力でとても助かっております。今では無くしてはならない存在であり、この場を借りてまず日頃の感謝を申し上げます。また中京大学では多くの派遣会社様とお付き合いさせていただいておりますが、キャリアパワー社とは特に多くの派遣利用をさせていただいております。今後も末長くお付き合いをしたいと思っています。

中京大学での派遣契約の利用は、この5年で2倍以上に増加しております。その背景の一つとしては、大学に期待される役割が年々変化し、拡張していく中、それに対応する為の組織改革を行っていることが挙げられます。最適な職員数というものは年間通して業務量や時期によって常に変動するものですが、スピーディーに組織改革を進めていく為には、その過程においては人材派遣を含めた学内外のリソースを有効に活用することが必要不可欠になってきます。組織改革した後の部署においては迅速に業務を軌道に乗せる為、即戦力の人材が必ず求められる状況があります。こうした必要なタイミングに必要な人材を確保できるという点が派遣契約利用の大きなメリットと考えております。キャリアパワー社は大学への人材サービスや業務委託に特化されている事業部をお持ちであり、大学業務の即戦力人材を多く抱えている点もキャリア

パワー社を評価できる部分です。また、2016年に女性活躍推進法が施行されましたが、本学では施行以前から女性職員の積極的な採用を行っております。例えば、今では20代の事務職員の内、半数以上は女性の方が活躍しております。このため必然的に結婚、出産といったライフイベントが多くなりますので、出産、育児休業期間中のスポットで人材を補充する役割においても派遣スタッフの方に非常に助けてもらっています。こういった期間限定の人材ニーズにもすぐに対応してもらえることも大きなメリットと考えております。

またキャリアパワー社からは派遣契約だけではなく、図書館では業務委託の契約を長年させていただいておりますが、業務委託を利用するメリットは3つあると考えております。1つ目は専門性の高い業務への対応が出来るという点です。先程も申しました大学への役割期待というのは拡張するだけではなく、特に教育研究分野に関しては高度化や専門化が進んでおり、図書館などの高い専門性が求められる業務に対応が可能なスタッフを確保でき、且つキャリアパワー社は会社として最新の業務知識やスキル、経験をお持ちであり、独自研修などで常に最新のパフォーマンスを保たれ、すぐに業務に反映していただけるという点が大きな1つ目のメリットと考えております。2つ目は、利用者の方の目線でサービスの向上が期待できるという点です。例えば、開館時間や開館日数といった点においては、利用者目線という1日でも多く開館をすること、また1時間でも長く開館をすることが基本

的なサービス向上に繋がると 생각합니다。大学がスタッフを直接雇用する場合であれば、どうしても人員数や勤務時間等により制限されてしまいます。ですが、業務委託を利用することにより、開館時間や日数の延長について、キャリアパワー社に適切な人員配置や雇用調整をしてもらえるので、利用者にとってのサービス向上に取り組みやすい点が私の考える2点目のメリットです。3つ目は、業務の標準化が挙げられます。世間一般ではホワイトカラーの生産性向上が課題とされており、私共も何とか業務改善やサービスの標準化を推進しようと努力しておりますが、実際には色々な課題の中、なかなか進んでいないのが現状です。原因の1つとして、業務の属人化によりノウハウが暗黙知化していることがあると考えております。これを業務委託化することによって業務の棚卸しを行い、マニュアルやフローに緻密にまとめ上げることで、結果的には業務の標準化や改善に繋げていくことができます。

このように派遣契約や業務委託にてお世話になっておりますが、あえて今後求めることを申し上げますと、やはり専門性が求められる分野のスタッフの確保になります。先程の1つ目にも関わってくるのですが、専門性の高いスキル・経験をお持ちの人材確保は、昨今非常に難しくなっております。専門性が高い分野に関しては、本学内部の人材からの調達もしくは育成が難しい所もありますので、外部からの確保をしていくわけですが、毎回人材確保に時間がかかり、苦勞しております。昨今の人材難の状況もよく理解はしているつも

りですが、専門性の高い人材を安定してご紹介していただけるサービスに期待しているという点があります。2つ目が、先程申し上げた専門性とは逆になりますが、大学は定型業務が安定的に回ることで成り立っている部分が大きくあります。定型業務を決められたルール通りに、早く正確に処理をすることが「事務の基本」だと思っておりますが、これは意外と簡単なことではなく、これが備わっている方はどのような職場でも重宝されているはずで、したがって、この「事務の基本」が出来る方の確保もまた難しいと感じています。現在も安定的にご紹介はいただいておりますが、その「事務の基本」が出来る人材を今後も長期且つ、安定的にご紹介いただけることを我々としては期待しているところです。

創立100周年を迎え、更なる大学の発展には内部統制の強化とブランド力の向上が必要。またステークホルダーへの感謝を忘れないこと。

これまで外部の人材サービスについてお話をさせていただきましたが、我々中京大学での取り組みや考えについてお話ししたいと思います。昨今、取り沙汰されている働き方改革関連法案の成立は本学でも大きな課題であると考えております。特に私がフォーカスしているのが、2020年の4月から施行される短時間又は有期雇用職員と正規職員との均等待遇・均衡待遇、いわゆる同一労働同一賃金についてです。これにつきましては、まず情報収集を入念に行いながら、慎重に検討していきたいと考えております。冒頭でも触れましたが、大学というのは多様な雇用形態の方に支えられて成り立っています。限られた財源の中で法令を遵守し、且つ多様な雇用形態の方にご納得いただける適正な業務分担とそれに応じた処遇の在り方を考えていきたいと思っております。この働き方改革は、制度を見直すことも必要ではありますが、根本的には「仕事に対する考え方」を変えていかなければならないと考えております。しかし、この「仕事に対する考え方」が一筋縄ではいかないところであり、世代によっても考え方は大きく違いますし、個人単位で見ても全く違いますので、ここの取り組みが一番難しい所です。多様な側面があることを配慮しながら、働き方改革に取り組んでいきたいと思っております。次に今回のインタビューでは、中京大学を運営する梅村学園が2023年に創立100周年を迎えるのですが、100周年に向けてのご質問もいただきましたので、お話をさせていただきます。まず本学に関わる全ての方に支えられて、2023年に梅村学園として100周年という大きな節目を迎えます。またその次の100年も社会から求め続けられる教育機関として存続していく為には、ブランドの確立が大切だと考えています。本学の建学の精神の要約は「スポーツと学術の真剣味の殿堂たれ」という言葉ですが、この中の「真剣味」は校訓となっています。真は真実の真で知育を、剣は剣術の剣で体育を、味は人間味の味で徳育を表しています。また、建学の精神ではスポーツマンシップの体得を求めており、スポーツマンシップとは、「ルールを守る」「ベストを尽くす」「チームワークをつくる」「相手に敬意を持つ」と定義しています。言葉にすると非常に単純明

快で簡単なことですが、どれも実社会で生活していく中で非常に重要な要素であり、社会人基礎力にも通ずるものです。建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」をお伝えすると、文武両道の点だけを強く認知されることがありますが、私としては真剣味の「味」やスポーツマンシップの「相手に敬意を持つ」という、いわゆる人間力にフォーカスしているところが特徴的で、最も好きなポイントになります。色々な学業やスキルの習得はもちろん必要だと思っておりますが、最終的には人間力を上げることが、仕事に限らず、人生そのものを豊かにすることだと考えております。また、在学生や卒業生の皆様のご尽力もあり、中京大学はスポーツに強い大学というイメージを持っていただいておりますので、今後も引き続きスポーツの面を大切にしつつ、学術の面や先程も申しました通り人間力も強い大学として認知される様なブランドを構築していきたいと考えております。

中京大学独自の計画「NEXT10」。ただの号令ではなく中身のある抜本的な改革をしていく。

また本学では2014年から「NEXT10」と銘打った長期計画を掲げており、様々な改革を行っております。例えば、ほとんどの学校法人には法人本部や事務局が設置されていると思いますが、まずそれらを廃止して、代わりに「行政本部」を新設し、その行政本部の下には総務、財務、企画、学事の4つの局を置く体制としました。これは学園のガバナンス改革の一環としての取り組みの1つです。他には、これも当たり前のように長年使用されてきた言葉ですが、「事務職員」という名称を「行政職」に変更しました。大学職員は学園の行政管理を担うアドミニストレータとして、ますます複雑かつ高度化する諸課題を解決し、不測の改革に取り組みなければなりません。私共の「変わらないなければならない」という想いが少しでも伝わる様に「行政職」という名称に変更しました。先程お話しした行政本部の新設や行政職への名称変更から、我々の取り組みに対しての本気度を皆様にご捉えていただけると幸いです。

ただ、箱と名称が変わっても中身が伴わなければ意味がありませんので、人事部の役割としては、スタッフディベロップメントをより一層推進していくことが非常に重要であると考えております。具体的な一例では、研修志向制度や大学院等学費補助制度、採用時研修の教職合同開催などを進めております。とはいえ、他大学様に比べればまだまだ追いついていない部分がありますので、全員でアイデアを出し合いながら進めていきたいと思っております。

まず自身が率先してベストを尽くす。そこで生まれた苦労は必ず報われる。その言葉が実感できたのは図書館の業務委託化。

次に話は変わりますが、キャリアパワー社から苦労話があればとご質問をいただいておりますので、私の経験をお話したいと思います。冒頭で、キャリアパワー社には業務委託でもとても助けてもらっているとお話しましたが、2008年度にまず図書館ライブラリーサービスセンターの業務委託化をして、2013年度には図書館全館の業務委託をお願いしました。ただ現在のように軌道に乗るまでには多くの苦労がありました。当時、「業務委託はマニュアル

辺倒の対応で冷たく、サービスの低下になるのではないかという先入観も多かったです。また、図書館という場所は大学の中でも非常に重要な施設の1つですので、その重要な場所を外部に任せて良いのかという意見も少なからずありました。特に教員の理解を得ることは苦勞しましたが、当時の上司の助けをいただきながら懇切丁寧に進めた結果、今日の体制が生まれました。実際に業務委託を導入してみると、司書資格をお持ちの専門スタッフの方ばかりで就業いただけることとなり、また継続的な研修制度もあり非常に高い水準の業務サービスを保っていただいております。そして、導入前に抱いていた業務委託化に関する心配や固定観念は杞憂だったことをキャリアパワー社に見事に証明していただきました。

余談ではありますが、当時お恥ずかしながら図書館業務に関して基本的な用語も知らない状態で業務委託化を推進しておりました。当時の図書館業務の中には、授業で使用する映像資料を複製する業務があり、資料の複製が著作権法に抵触するかもしれない為、調査が必要となりました。しかし、何をどう調べればいいのか分からず、かといってインターネットで調べたことを根拠にするというわけにはいきません。そこで根拠となる文献を図書館で探すこととなりました。当時の図書館事務課の職員の方に相談し、事情を説明したところと根拠としても十分な参考文献を紹介してもらい、非常に助かった記憶があります。最後その方にお礼を述べて帰る時に「これがいわゆるレファレンス業務です。図書館のレファレンス業務がいかに大事かわかってもらえましたか?」という言葉もらったことが今でも強く印象に残っています。業務委託前の名古屋図書館の来館者数は年間4万人ぐらいでしたが、その後キャリアパワー社とスタッフの方のご尽力もあり、2013年に名古屋図書館のリニューアルも経て、現在では18万人(2017年度)の入館者数がある規模になりました。図書館の業務委託化では色々苦勞をしましたが、入館者数や今の図書館の姿を考えると、あの時の苦勞が報われた気がします。

話は変わりますが、私が仕事をやる上での信条としている言葉の質問をいただいておりますので、ご紹介いたします。阪急電鉄の創業者の方で小林一三さんという方がいらっしゃいますが、その方の言葉で「下足番を命じられたら、日本一の下足番になってみる。そうしたら、誰も君を下足番にしておかぬ」という言葉がありまして、個人的に非常に心に残っている言葉です。まずは与えられた自分の役割の中でベストを尽くす。そこで頑張っていれば結果は後からついてきて、それが自分の仕事に対する信用となり、もう一段階上の仕事に繋がっていく。これは私なり解釈でもありますが、努力の過程は必ず誰かが見てくれていることだと個人的に捉えております。行動もせずに理想ばかり言うのではなく、まずはどんな仕事であっても取り組んで、自分が動いて形にするからこそ、初めて批判なりが出てくるのだと思います。この小林一三さんの言葉を信条に、まずは自ら率先して何事にも取り組むということを常に意識しております。

仕事も休日も趣味もアグレッシブに動き続けることが自身のエネルギーである

インタビューの最後に私の経歴を簡単にお話

させていただきます。大学を卒業した後、信託銀行に就職しまして名古屋と大阪で個人のお客様への外回り営業をしておりました。特に説明を必要としない定期預金を勧めるよりも、投資意欲のあるお客様にスワップやオプションといった外為のデリバティブ商品を提案することが非常に面白くて楽しかったという記憶があります。その後、地元に戻り小さな会計事務所に転職しました。そこでは、信託銀行で働いていた際には全く接点のなかった様々な業種の方

と幅広くお付き合いさせていただきました。帳簿を見ることがメインのお仕事ではありませんでしたが、帳簿を見るよりも、溶接の火花が飛び散る工場、部品を作る製造ライン、住宅の建築現場などの現場に実際に訪問して社長さんとお話しする時間の方が楽しく印象に残っています。他にも飛び込み営業や資金回収などの業務もありましたが、その経験の全てが自分の財産になっていると感じております。個人的なお話の続きにはなりません、中学生の

頃から始めたハンドボールを趣味で続けております。現在もチームに所属して休日には練習も頑張っています。新入職員くらいの若い子に「このプレー違うでしょ!」と怒られたりしながらも(笑)年齢には負けずプレーしています。今年、初めて全日本のマスタース大会に出場しましたので今後も継続して出場することを個人的な目標に掲げております。

スタッフインタビュー

■ Interview

自分の世界が広がっていく感じが、私がお仕事を好きな理由



大学図書館でリーダーとして活躍されており他方面から評価の高い本多真利子さん

私が、キャリアパワーに出会ったのは約10年前になります。図書館のお仕事を探していると希望の条件にピッタリのものを見つけたので登録にお伺いしました。その時に、私の経験や希望を色々聞いていただいてその中でご紹介いただいたのが今の大学図書館のお仕事でした。今のお仕事に限ったことではないですが、私にとってお仕事は「自分の基礎を作ってくれているもの」と思っています。毎日の積み重ねで出来ることが増えたり、色んな人と会ったりして業務上でいろんな出来事に出会うと自分の世界が広がっていきます。だから、明日すごいお金持ちになったとしてもきっと仕事は続けると思います(笑)リーダーの立場に就かせていただいてからもまとめようとか指導しようとかそういう事はあまり思ったことはなく、他のスタッフの方にも同じように思ってもらえたらと想い、スタッフの皆さんが自分の持ち味を活かせるような、ちょっとした疑問とか質問を相談しやすいような雰囲気心をかけてます。

私は、昔から人と接するお仕事が好きなので図書館だとカウンター業務が一番好きです。利用者の方も学生の方だけでなく卒業生の方や学外の方と多岐に亘りますのでそれぞれ違う質問や問い合わせに対して上手く相手のニーズを汲んで的確にご案内できたときは本当にやりがいを感じます。分からないこともまだまだありますので、利用者の方に喜んでいただけるように日々勉強しています。

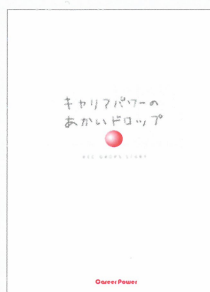
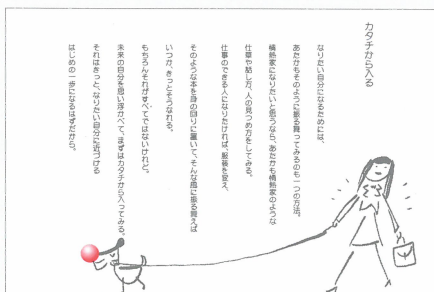
ここで、話は変わりますが私の趣味のお話をさせていただければと思います。お芝居が趣味で劇団の舞台にも出演させていただいています。小学校のときに「ガラスの仮面」という演劇少女のバイブルのような漫画にハマってみんなで遊びの延長で放課後に劇をしていたのがきっかけですね。クラブ活動ではなくてただやりたい人が集まって劇を作っていた時期があって、それで劇が面白いなと思いはじめのめりこんでいきました。元々本が好きなので物語の世界に入れるみたいな楽しさもあって演じるって楽しいなと思えました。そこから演劇クラブにも入りましてし、高校は演劇部に所属してましたけど、本格的にやり始めたのは大学生のときですね。演劇サークルで小劇場系のお芝居を学びました。演じるだけではなくて観に行くようになったのもこの時期でした。卒業してからも演劇関係のお仕事をしたいなと思ってミュージカル劇団の製作部に入って全国転々としてました。

当時は、製作部として営業みたいな事をしていたのですが、結婚出産で一旦お仕事を辞めてから改めて役者の勉強をしようと思って養成所の見学に行ったり、声優の養成所にも通ってました。今は、人の縁で呼んでくれた小劇場系のお芝居で仕事と両立して客演させていただいています。

キャリアパワーは、歴代の営業の皆さんが芝居まで見に来てくれますし、親身になって相談にものってくれます。また、対応も迅速で本当にお世話になってるなと思っております。

■ Information

● ご存知ですか? キャリアパワーのあかいドロップ



「This We Believe…」わたしたちキャリアパワーの信じるどころ。その想いから生まれた小さな冊子が「キャリアパワーのあかいドロップ」です。出会うことができたすべてのスタッフの皆様的心里に、私たちの想いをお伝えしたい。そして、一人でも多くの方の心に、その想いを留めてほしい。ずっと変わらぬ想いでお届けしています。ぜひご愛読ください。

ご希望の方に配布中です くわしくはスタッフ企画室まで!

TEL 0120-288-450 E-mail info@careerpower.co.jp

■ Information

第20回 図書館総合展レポート

第20回図書館総合展に出展しました



2018年10月30日(火)～11月1日(木) パシフィコ横浜 展示ホール/アネックスホール他

キ

キャリアパワーは今年も2018年10月30日(火)から11月1日(木)まで、パシフィコ横浜で開催された第20回図書館総合展に出展し、企業ブースの出展と、弊社主催フォーラムの開催をいたしました。

企業ブース

企業ブースでは、弊社とお取引のある4大学(国際教養大学・立命館大学・東京国際大学・早稲田大学)の図書館で責任者様に、これからのライブラリアンに求められることや今後の図書館のビジョンなどについてインタビューさせていただき、インタビュー動画の放映を行いました。当日はたくさんの方が足を止めていただき、興味深く動画の視聴をしていただきました。また「参考になりました!」と言うお声もたくさんいただき、今年のブースは皆様に少しでも有益な場所をご提供できたかなと感じました。また来年もより一層、皆様へ有益なブースとなります様に考えていきたいと思っております。



フォーラム

キャリアパワー主催のフォーラムでは、「グローバル人材の育成に大学図書館が担う役割～24時間365日開館の中嶋記念図書館が目指すもの～」をテーマに、国際教養大学 特任教授・図書館長の加藤信哉様を講師にお招きし、国際教養大学のミッションや教育の特色、それを支える中嶋記念図書館の特色や今後のビジョンについてお話しいただきました。全国から約180名の方にご参加いただき、グローバル人材の育成に力を入れる大学が増えている中、大学図書館としてどのような支援、取り組みが求められるのか、中嶋記念図書館の事例を紹介いただきながら御講演いただき、大盛況のうちに終了いたしました。フォーラムで御講演いただきました加藤館長先生、ご参加いただきました皆さま、大変お忙しい中ありがとうございました。



インタビュー内容 ※一部抜粋

企

企業ブースでは、弊社とお取引のある大学様のインタビュー動画を放映いたしました。インタビューにご協力をいただきましたクライアント様、ありがとうございました。ここでは、一部ではございますがご紹介させていただきます。

立命館大学 学術情報部
次長 近藤 茂生様

■図書館では学生のライブラリースタッフを毎年募集していて、各キャンパス50人から100人くらいのスタッフが働いてくれています。3年くらい前までは、言語とかコミュニケーションの問題もあり、留学生は募集していませんでした。むしろそれは逆に、今はすこし政策的に留学生を増やそうと、学生スタッフの中の留学生比率を30%にしようとして取り組んでいます。キャンパスによって留学生の数も違いますし、国が偏ることもありますが、5～6カ国、比率としては多いキャンパスで現在26%くらいまで上がってきました。

確かに当初学生間で戸惑いはあったと思いますが、学生たちもとかくそういった、コミュニケーションが瞬間的には成り立たないような環境でも、まずはそこに放り込んで、自分たちがコミュニケーションできるように努力していく、このプロセスそのものがグローバル人材を育成していくんだなと思います。決して授業の中だけでそういった人材ができるわけではないと思っています。

東京国際大学 ITイノベーション推進部 図書館課
統括部長 右近 康夫様

■従来から、学生が自ら学習する場として大学図書館の役割は重要なものですが、本学では、全学をあげてLMS(eラーニングの実施に必要な学習管理システム)の利用を進めていることなどもあり、授業の外で学生が自ら学習する機会は今後ますます拡大し、それに伴って図書館の利用も伸びていくと思っています。

また2023年9月に予定している池袋国際キャンパスの開校に向けて、留学生の受け入れを現在の約60カ国1200名から、100カ国2000名へ増やしていく計画ですので、これまで以上に、英語による対応や電子ジャーナルへの対応なども重要になっていきます。

本学では、図書館利用者との接点はすべて業務委託でお願いしていますので、これらに対応していくために、業務を委託しているパートナー企業様とは、これまで以上に綿密に連携していく必要があると思っています。

Support Center News

学術サポートセンター通信 Vol.Ⅶ

☒ 図書館業務には既存手順を着実にやっていくべき業務もあれば、新しいアイデアや柔軟な発想を求められる業務もあります。例えば、各館で行われている企画展示について、「色々考えてやっているけれど自信はない…」や「やってみたいことはあるけれど不安」というお気持ちのスタッフさんもいらっしゃるのではないのでしょうか。今回のワンポイント学習では、企画展示の実践的なポイントをいくつかご紹介いたします。具体的なチェックポイントを押さえることで、いつもの企画展示をバージョンアップし、図書館の活性化に繋がっていきましょう!

「企画展示」について 計画のポイント	
☑ 目的の明確化	何のために展示を行うか目的は明確ですか? 「貸出冊数を増やしたい」「入庫者が少ない書庫資料を紹介し活用させたい」「学生から質問の多いレポートの書き方について周知したい」「図書館を賑やかに見せたい」「イベント告知を兼ね関連本を展示したい」など、目的によって対象へのアプローチが変わってきます。
☑ 効果測定方法の決定	目的に合った効果計測方法は想定していますか? 「展示本の貸出統計をみる」「書庫入庫統計を確認」「カウンターでの質問件数減少」「利用者からの意見収集」「イベント参加者の増加」など、展示による利用者の反応が数値的または具体事例として確認できることが望ましいです。
☑ 展示終了後の展開	展示が終わったらそれきりになっていませんか? 「Webサイトに紹介ページ掲載」など実績を残すだけでなく、「選書リストを配布」「別の館で巡回展示実施」など、二次活用も検討してみましょう。
☑ テーマ選び	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主題系 「卒論対策」「クリスマス本」「泉鏡花」、文学賞系 「ノーベル賞」「本屋大賞」、別媒体連携 「映画化された原作本」、選書系 「教員のオススメ」「学生選書」、イベント連携 「ビブリオバトル」、今日の一冊系 「今日は何の日」などがよく実施されます。似たようなテーマが続いてしまうときは、思い切って視点を変えてみましょう。「赤い本」「Aで始まる本」「夏の終わり」「美味しい食べ物が出てくる本」「80年代出版本」「一度も借りられていない本」「小林さんが書いた本」など、自由な発想を楽しむところから始めてみてください。最近では、あえて本の情報を出さずに展示する「本の福袋」「覆面本」なども、利用者から人気があるテーマです。</p> </div>

「企画展示」について 展示方法のポイント	
☑ 場所の工夫	代わり映えしない展示コーナーになっていませんか? 対象者の動線を考慮し、最適な場所を考えましょう。「カウンター前の『今日の一冊』『薄くて軽い本』でプラス1冊を促す」「ラーニング commons への出入口に「プレゼン本」を並べる」など可能性を探ってみてください。いつもの場所でも、レイアウトを変えるだけで目新しさが生まれます。椅子を組み合わせて、座って閲覧できるコーナーを付け足すだけで、滞在率も上がります。
☑ アイキャッチ	来館者を引き寄せるアイキャッチがありますか? 入口から最初に見えるところには、鮮やかな色やインパクトある大きさのフォントの「ポスター」や、目立つ「立体物」をおきましょう。
☑ スムーズな導線	アイキャッチによって興味を持った利用者が近づき、コーナー全体を見ていくような流れができていますか? ストーリーに沿った「カテゴリ分け」や、「赤系の暖色(前進色)→青系の寒色(後退色)」なども効果的です。
☑ 幅	同カテゴリは、一度に見渡せる範囲(1.8m)内ですか? 柱などで面が異なる場合は別カテゴリにしたほうが導線にメリハリが出ます。また、立ち止まって見ている姿を見た他の利用者がつられて近寄ることも多いため、複数人数が同時に見ることのできる適度なスペースを保つと良いです。
☑ 高さ確保	目に入る高さ、手にとれる高さを使い分けていますか? 目の高さ～腰の高さがもっとも資料を取りやすいゴールデンゾーンです。目立たせたい資料はここにおきましょう。至近距離のゴールデンゾーンに面出しならば45度が理想です。最下段ならば30度、遠くから目立たせるなら上段に90度など、見てほしい対象者と棚の高さにあわせブックスタンドを選びましょう。
☑ 貸出後の想定	綺麗に展示したけれど、すぐに貸し出しされてしまったとき、どうしていますか? 予約を促す案内を置いておく、関連資料を追加展示する、などの次の行動に移す展開も考えておきましょう。

● 展示風景例



■ Information

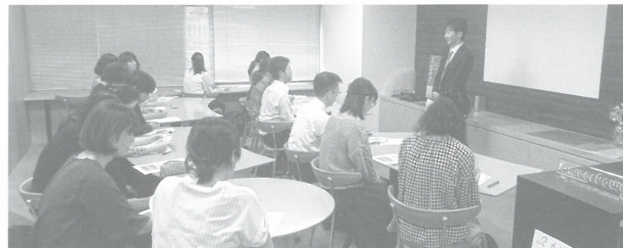
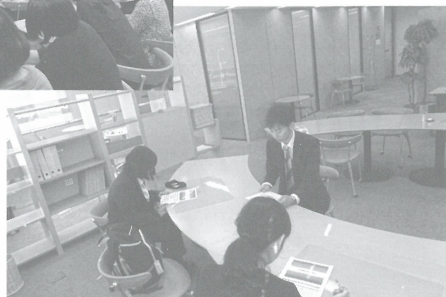
新人スタッフ向けフォローアップ研修を開催しました

10月6日(土)、新人スタッフの方に向けて“図書館と著作権法”と“図書館と個人情報保護法”の2点をメインにしたフォローアップ研修を開催いたしました。

著作権のことや個人情報保護に対して、図書館がどういう対応をしていけばいいのを実際の事例やQ&Aを元にご紹介し、クイズ形式で学んでいくスタイルの研修は、図書館業務を始めて数ヶ月というスタッフの方にも分かりやすいと大好評をいただきました。

これからも個人情報や著作権に対する見識や知識を深めて利用者の方へのサービス向上の取り組みを続けていきます!

キャリアパワーは、トレンドに合わせた独自研修で基礎から応用テクニックまで幅広くサポートしています。これから図書館業務を始めたいという方を応援します!



●研修にご参加された方からのご意見 ※一部抜粋

- 著作権や個人情報保護に対してどういう対応が必要か聞いてよかったです。
- 実際の事例を紹介いただきながら説明いただけただけで勉強になりました。
- 日ごろから気をつけている様にはしているものの、たくさん知らないことや抜け落ちていることが多くあったので改めて意識しようと思いました。
- 研修で学んだことを活かして、今後利用者との対応等、心がけていきたいです。
- 初めての研修でしたが、実際の問題を出しての説明があり質問する時間もあったので改めて学び直すことができました。
- 今回の研修を受けて、図書館職員として、個人情報を適切に取り扱わなくてはならないという責任感が芽生えるよいきっかけになりました。
- 初めての図書館勤務で、勝手がわからず不安に思っていたところが多かったのですが、それが解消し、とても良かったです。

■ Information

今年も京都学生祭典を応援しました!

第16回 京都学生祭典



10月7日(日)、京都平安神宮一帯で第16回京都学生祭典が開催されました。キャリアパワーはこの祭典を第1回目から応援。今年も京都最大級のお祭りをバックアップしました。

本祭当日は大迫力のオープニングに始まり、「京炎そでふれ! 全国おどりコンテスト」や「Kyoto Student Music Award」、「京都こども企画」、「京都学生コレクション」など多くの企画が開催。グランドフィナーレでは各種表彰のほか、来場者、演出者が一体となって盛り上げる総踊りで締めくくられました。また、キャリアパワー企業ブースでは、グループを紹介したパネル展示を実施。多くのお客様にご来場いただきました。

● 法令遵守委員会

キャリアパワーは、労働者派遣法や労働基準法など各種労働法令を遵守し、常に適正な事業運営を果たすために、社内に法令遵守委員会を設置しています。定期的に派遣先を巡回、また社内監査を行ないながら、派遣契約内容を改めて見直し、法令の遵守が出来ているかの再チェックを行なっています。また、全社員に対して法令知識向上とコンプライアンス遵守の意識強化のために、定期的に研修会や勉強会を実施し、コンプライアンスの課題解決や事前防止の徹底を図っています。遵法精神を貫くことで、当社で働く派遣労働者、そして人材派遣を利用される全ての派遣先企業様に、よりいっそう満足して頂ける様、活動を行なっております。

派遣コンプライアンスに関する問い合わせ先

株式会社キャリアパワー 法令遵守委員会

TEL 075-341-2929 E-mail support@careerpower.co.jp

キャリアパワー各支社へは、フリーコール 0120-154-450 にお気軽にお問合わせください

東京：〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル 15F
 大阪：〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング 2F
 名古屋：〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅3-25-9 堀内ビル8F
 京都：〒600-8216 京都府京都市下京区堀小路通烏丸西入東塩小路町843-2 日本生命京都ヤサカビル 4F
 滋賀：〒525-0025 滋賀県草津市西沢川11-1-3 リバティハウス4F
 システムセンター：〒600-8269 京都府京都市下京区七条通堀川西入西八百屋町160

TEL.03-6895-2929(代) FAX.03-6895-2911
 TEL.06-6346-2929(代) FAX.06-6345-1268
 TEL.052-563-2929(代) FAX.052-563-3511
 TEL.075-341-2929(代) FAX.075-341-3828
 TEL.077-501-9292(代) FAX.077-501-9200
 TEL.075-344-6776(代) FAX.075-344-6780

発行

株式会社キャリアパワー

企画/制作

株式会社キャリアクリエイト

2018.12.15発行